

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	多治見市立南ヶ丘中学校			フロンティアチャ-	田中 慎一郎	
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	1	15	29
生徒数	195	151	182	1	529	

研究の概要

1. 研究主題

<p>生きる力を培う教科指導の在り方 - 基礎・基本の定着を図り, 個性を生かすための個に応じた指導方法の工夫改善 -</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科 ・平成13年度には国立教育政策研究所より「個に応じた指導の充実に関する研究」の指定を受け, 全学年・全教科体制で取り組んだ。その実績を土台とし, 平成14年度からの学力向上フロンティア事業にかかわる研究構想を描き, 実践的な研究を積み上げてきた。継続的で実証的な研究を進めるためには, 昨年度と同様の研究の構想や体制を継続していくことが適切であると考えたため。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

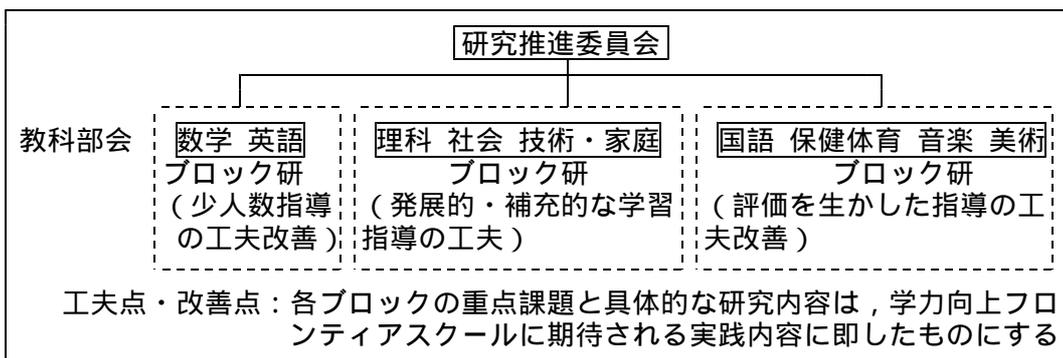
平成14年度	<p>テーマ 生きる力を培う教科指導の在り方 - 基礎・基本の定着を図り, 個性を生かすための個に応じた指導方法の工夫改善 -</p> <p>仮説 教科指導にあたって, 「基礎・基本の定着」と「個性の伸長」の2点に視点をおき, 「個に応じた指導」を繰り返していけば, 生きる力を培うことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 基礎・基本の明確化と個の把握の充実 (1) 「学習内容」と「学び方」からみた身に付けさせたい力の明確化 (2) 「学習内容」や「学び方」を系統的・段階的に配列した指導計画の作成 (3) 診断的評価の充実(事前の把握) ・既習内容の定着度, 学習適性, 興味・関心の傾向などの把握 (4) 形成的評価の充実(授業中の把握) ・観点別評価による生徒一人一人の学習状況の把握</p> <p>2 基礎・基本を定着するための「指導の個別化」の工夫 (1) 習熟度, 興味・関心などの個の違いに応じる英語・数学における少人数指導など多様な指導形態, 指導過程の工夫 (2) 選択教科の工夫 ・25分選択(週2回)における補充的な教材の開発と実施 ・基礎コースのカリキュラムや補充的な教材の開発と実施</p> <p>3 個性を生かすための「学習の個性化」の工夫 (1) 興味・関心, 生活経験, 学習経験などの違いによって異なる個性を生か</p>
--------	---

	<p>す多様な指導形態，指導過程の工夫</p> <p>(2) 選択教科の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の個性を生かす発展コースのカリキュラムや発展的な教材の開発と実施</li> </ul>
--	--

平成15年度	<p>* 研究の基本構想（テーマ，仮説，研究の柱）については14年度のを継続するが，学力向上フロンティアスクールに期待される三つの実践内容に対応したブロック体制での研究を推進し，14年度の課題の解決を図りたいと考える。三つのブロックの重点課題と具体的な研究内容は，次のようである。</p> <p>1 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の開発（社会・理科・技術・家庭科ブロック）</p> <p>(1) 重点課題：発展的・補足的な学習指導の工夫</p> <p>(2) 具体的な研究内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本を定着するための補足的な教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度などに応じる教材の開発</li> </ul> </li> <li>個性を生かすための発展的な教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を喚起する教材の開発</li> <li>・選択教科における発展的な教材の開発</li> </ul> </li> <li>発展的・補足的な学習の在り方の明確化（必修教科・選択教科）</li> <li>発展的・補足的な教材を活用した学習指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・診断的評価を生かした学習集団の組織化</li> <li>・習熟度別・課題別等の学習コースの設定</li> <li>・学習プリントや補助資料の工夫</li> </ul> </li> </ul> <p>2 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善（数学・英語ブロック）</p> <p>(1) 重点課題：少人数指導における学習集団編成や指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>(2) 具体的な研究内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の形態（学習形態・学習集団・指導体制）の多様化 最適な形態の設定</li> <li>基礎・基本を定着するための，個の習熟度や興味・関心などの違いに応じた指導形態・指導過程の工夫改善</li> <li>個性を生かすための，個の興味・関心，生活経験，学習経験などの違いに応じた指導形態・指導過程の工夫改善</li> <li>少人数指導の形態を生かした学習指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース選択の適正化を図る工夫</li> <li>・個に応じる手だての工夫</li> </ul> </li> </ul> <p>3 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善（国語・保健体育・美術・音楽ブロック）</p> <p>(1) 重点課題：評価を生かした指導の工夫改善</p> <p>(2) 具体的な研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位時間における基礎・基本と評価規準の明確化</li> <li>・基礎・基本を系統的・段階的に配列した指導計画の作成</li> </ul> </li> <li>指導に生きる評価の場・内容・方法の明確化（診断的評価、形成的評価、自己評価）</li> <li>診断的評価を生かした指導形態・指導過程の工夫（単元、一単位時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定、学習活動、学習コース、自己評価や相互評価の観点</li> </ul> </li> <li>形成的評価を生かした「つまずき」に応じた指導・援助の充実</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<p>* 研究の基本構想については14年度に設定したものを継続するが，平成15年度までの課題を受けた実践研究の重点を設け，課題の解消と充実を図りたいと考える。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

実践の成果と課題を明らかにするために、「教育課程実施状況調査」での通過率の分析と全校生徒を対象に実施した授業に対する意識アンケート(「授業への満足度」と「その理由」)の分析を行っている。その結果及び結果から明らかになった成果を示す。

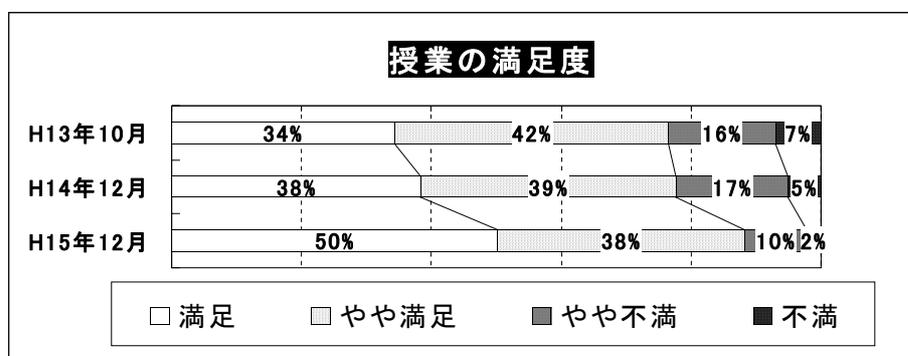
	1年			2年			3年		
	全国平均	本校平均		全国平均	本校平均		全国平均	本校平均	
		H14.7	H15.7		H14.7	H15.7		H14.7	H15.7
国語	82	72	82	75	70	77	70	66	70
社会	73	79	73	49	50	51	55	47	52
数学	71	61	64	61	60	66	62	61	59
理科	74	76	70	53	44	61	57	56	59
英語				62	59	68	67	69	69
計	75	72	72	60	57	65	62	60	62

□ は全国平均に達しなかったもの

上記の結果から、次のような点に成果を見出すことができた。

2年生：通過率の全国平均を上回る教科が、4教科中2教科(1年生の時)から全教科となり、5教科の平均も全国を上回った。

3年生：通過率の全国平均を上回る教科が、5教科中1教科(2年生の時)から5教科中3教科となり、5教科の平均も全国レベルとなった。

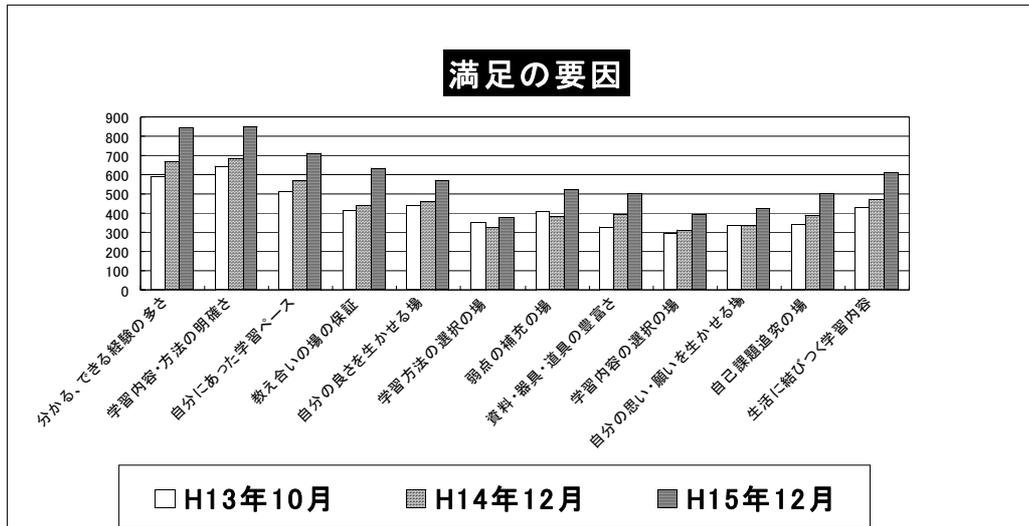


「授業に対する意識アンケート」の結果において、次のような点に成果を見出すことができた。

授業に対して「満足だ」と感じている生徒の割合が、77パーセントから88パーセントへと増加した。その「理由」についても、全項目で増加傾向にあり、特に「分かる・できる経験の多さ」と「学習内容・方法の明確さ」「自分に合った学習ペース」を保障してきたことが、生徒の満足感を引き出したと推察される。

このようなアンケートの結果も踏まえ、研究の成果を、次のようにとらえた。

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発にかかわって  
 必修教科と選択教科の両方を視野に入れて、発展的な学習と補充的な学習の



在り方や位置付け方を明らかにすることができた。それぞれのねらいや特長を生かし、個に応じた指導を展開するための方法別・習熟度別・課題別の学習プリントや補助資料、つまずき別ヒントカードを開発することができた。これらの教材の活用の仕方も工夫することで、つまずきを克服し、自信をもって新たな課題に取り組む姿が増えてきた。

- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善にかかわって  
 少人数指導の形態を多様に描き、領域や単元の特性・ねらいや学習コースの特性、単位時間のねらい、生徒の実態に一層即した指導を展開する可能性が広がった。また、学び合いや深め合いができるという一斉指導のよさも生かしながら、基礎・基本を定着させることができた。
- (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善にかかわって  
 単位時間ごとの基礎・基本と評価規準を位置付けた指導計画を作成した上で診断的評価と形成的評価の場・内容・方法を明らかにすることができた。それによって、ねらいと課題、評価が一貫したものになり、個に応じた指導を行う基盤が整ってきた。  
 診断的評価を生かして、単元構成や単位時間の学習過程を工夫するとともに、個に応じる指導方法も工夫した実践を積み上げることができた。こうした工夫を重ねることで、自発的・主体的に学ぶ生徒の姿を引き出すことができた。

## 2. 今後の課題

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発にかかわって  
 必修教科との関連を系統的・構造的に明らかにすることと、ねらいや生徒の実態に一層即した教材を開発すること、教材を有効に活用するための手だてを明らかにすることを重点にして、選択教科のカリキュラムづくりを進めていく必要がある。
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善にかかわって  
 多様な少人数指導の形態の中で、最適なものを設定するために、授業評価や

診断的評価による生徒の実態把握を一層充実させる必要がある。  
各単元や各単位時間に位置付ける少人数指導の最適な形態を実践的に明らかにするとともに、その有効性を実証していく必要がある。

学習コースの選択を的確なものにするため、チェックプリントの内容（質と量の両面）についてさらに吟味したり、自己評価能力を高める指導の在り方を明らかにしたりする必要がある。

- (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善にかかわって  
「指導と評価の一体化」を図ることは、今後も研究実践の柱とする。加えて、次の4点も重視した評価の在り方を明らかにし、充実させていく必要がある。
- ・単元や教材の特質に応じる
  - ・継続的・累積的な評価を行う
  - ・自己評価能力を高める
  - ・個の成果や成長を自覚させ「わかる・できる」楽しさや喜びを実感させる
- 生徒による授業評価や学力調査の結果を踏まえて、研究の重点化や授業の工夫改善を一層図っていく必要がある。

#### 学力把握のための学校としての取組

- ・教育課程実施状況調査（文部科学省実施）を利用し、7月に全学年・全学級・全教科（5教科）を対象に学力調査を実施した。16年度についても、年1回の実施を計画しており、各学年・各教科の通過率の変容を見ることで、学力の把握や指導方法の有効性を検証する資料として役立てていく。
- ・15年度の成果と課題にも記したように、「授業に対する意識アンケート」を昨年度より実施している。アンケートは全校生徒を対象に全教科について行っている。内容は「授業への満足度」と「その理由」である。

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 【東濃地区協議会・学力向上フロンティアスクール公表会】
- ・日時：平成15年11月6日（木）
  - ・場所：多治見市立南ヶ丘中学校
  - ・テーマ：生きる力を培う教科指導の在り方  
- 基礎・基本の定着を図り、  
個性を生かすための個に応じた指導方法の工夫改善 -
  - ・参加対象：東濃地区全中学校
- 【ホームページの作成】
- ・アドレス：<http://www2.city.tajimi.gifu.jp/~minami/>
  - ・掲載事項：公表会開催の案内  
研究のあゆみ、公表会資料（リーフレット、全体構想図、各教科の構想図）  
学校報（当日の授業の様子、参観者の感想などについて）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校			
【学校規模】	3学級以下	4～6学級	7～9学級		
	10～12学級	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導	その他		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科	外国語
	美術	技術・家庭		保健体育	音楽
				その他	
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無			【新規校・継続校】